

実践校：大槌町立吉里吉里中学校

I 取組の概要

1 復興教育の開発・普及

(1) 小中一貫教育による郷土芸能伝承活動

ア ねらい

- ・伝統文化に触れ、ふるさとの理解を深めるとともに、郷土を愛する心を育てる。
- ・小学部高学年と中学部で取り組むことで、児童生徒の交流と連携を深める。
- ・取組を地域に発信することで、地域に元気を届ける。

イ 内容

<5月> 郷土芸能ガイダンス（講話）

- ・吉里吉里地区の郷土芸能保存会3団体の代表者をお招きしての講話。

<6月> 練習

- ・上級生から下級生に指導しながら伝承する活動（9年生のリーダーを中心として、4～9年生の全児童生徒が協力して練習に取り組む）。
- ・郷土芸能保存会3団体の協力のもと、全職員体制で練習に取り組む（夜練習あり）。

<7月> 郷土芸能発表会

- ・体育館にて実施。地域の方々に公開。来場者数約250名。
- ・1～9年生の全児童生徒参加。3年生児童による発表もあり。
- ・郷土芸能発表会の翌日、中学部に4～9年生が集まり、3つのグループに分かれて、活動の振り返り。担当教員からの評価。



(2) PTAワカメ体験学習



ア ねらい

- ・郷土理解を推進するため、地域教材（ワカメ）を活用しながら、学校、保護者、地域の力を結集し、体験的な学習を実施する。
- ・生徒達に、ワカメの製品化や9年生時の修学旅行での販売など、豊かな体験の場を提供する（モノづくりの喜び、起業の喜び等）。

イ 内容

<11月> 種捲き作業

- ・吉里吉里養殖組合、漁協の協力による指導の下、7年生と8年生の生徒で実施。

<2月> ワカメ刈り取り・塩蔵・ボイル作業

- ・たくさんの地域の方々と全PTA会員の協力の下で実施。
- ・7年生と8年生の生徒で実施。

<3月> 製品加工作業

- ・ワカメ芯裂き作業、選別作業、袋詰め作業。7年生と8年生の生徒、全PTA会員による作業。地域の方々も作業に参加。
- ・4月の9年生の東京修学旅行等でワカメを販売。地域にも販売。町のふるさと納税品目への協力。

2 防災教育・訓練手法の開発・普及

(1) 各種防災教室等とタイアップした防災訓練

ア ねらい

- ・避難訓練や防災週間等の防災学習に危機意識を持って真剣に取り組み、防災の知識を身につける。

- ・避難訓練や防災週間等の防災学習を通して、災害時に主体的に判断し、行動できる力を身につける。

イ 内容

- <6月>大槌消防署とタイアップした防災訓練
(火災避難訓練)
- <9月>緊急地震速報を活用した防災訓練
(地震津波避難訓練)
大槌町危機管理室による防災教室
- <11月>登校時間における小中合同避難訓練
※大槌町防災訓練と同時刻に、今年度は実施。

(2) 小中一貫教育による防災週間の取り組み

ア ねらい

- ・小学部、中学部で同時期に防災週間を設け、命を守る防災教育を学園全体で推進する。
- ・児童、生徒の防災意識の向上を図るとともに、1週間の中で組織的に防災教育に取り組むことにより、防災に関する知識と実践力を集中して身につける。

イ 内容

- <10月31日(月)> SCによる心の授業
 - ・高橋哲スーパーバイザーによる心の授業。
 - ・語り継ぎ(表現活動)がこころのケアにつながることを知る。
- ・体験の記憶を積極的に表現し、それに向き合う。
- <11月2日(水)> 応急手当講習会
 - ・大槌消防署消防隊による講習会。
 - ・自然災害による傷害が災害発生時だけでなく、二次災害によって生じることから、傷害が発生した際の応急手当の知識や技能を身につける。
 - ・心肺蘇生法の意義と方法、AEDの使用法、搬送法と止血法の意義と方法を学ぶ。



<11月4日(金)5日(土)> 防災授業

- ・阪神淡路大震災被災者で兵庫県立舞子高校環境防災科卒業生、現在神戸市のNPOや人と防災

未来センターで活動している方々をお招きしての講演会(トークセッション)を実施。

- ・生徒によるこれまでの取り組みや防災についての考えなどの交流、発表。



<11月5日(土)> 小中合同避難訓練

※防災週間の詳細については別紙・防災だよりを参照。

II 取組の成果と課題

1 成果(取り組みによる教育効果)

(1) 郷土芸能伝承活動により、郷土芸能や吉里吉里のことが好きになった生徒たちが増えただけでなく、郷土芸能が盛大に行われる8月の吉里吉里祭や年間を通して地域の郷土芸能活動に参加する生徒が増えた。

(2) 防災訓練や防災週間など、各関係機関と連携し組織的に防災教育に取り組むことにより、幅広い角度からの防災教育が行うことができている。そのことにより、防災についての知識を身につけるだけでなく、生徒たちには震災と向き合える力、困難を乗り越えていく力などが少しずつ身につけてきている。

特にも今年度は、防災週間の中に防災トークセッションを位置付け、兵庫県神戸市の方々とコミュニケーションをより多く持てるよう配慮した。これにより、生徒達は学んだことや考えていたこと等を進んで発表しながら、これまで取り組んできた活動に自信と誇りを持つことができた。また、講師お二人それぞれの震災当時の様子やその後の心の変容等についてお話を伺うことで、防災や生き方に対する考えをより深めることができた。

防災教育と復興教育は、今の自分を見つめ、これからどう生きていこうとすることを考える生き方学習に発展させることができる。

(3) PTAや地域の方々を巻き込んだワカメ体験学習には多くのPTA会員や地域の方々が参加した。生徒たちの生き生きと学習に取り組む姿、地域の方々の笑顔等が多く見られ、生徒（学校）のためだけでなく、地域のためにもなる（地域も元気になる）学習をふるさと科で実現することができた。ふるさと科でねらう姿にワカメ体験学習を通して迫ることができた。

(4) まなびフェストの項目にもとづいた学校評価アンケートの今年度の1学期と2学期の生徒アンケート結果は次のようになっている。

<項目22> 「ふるさと科の学習（郷土芸能伝承活動・ワカメ体験学習など）に積極的に取り組み、地域の良さに目を向けることができた」

- ① 1学期 A93% B7%
- ② 2学期 A77% B19%

<項目23> 「ふるさと科の学習（郷土芸能伝承活動・ワカメ体験学習など）を通して、自分も地域のために何かを頑張りたいと思った」

- ① 1学期 A80% B15%
- ② 2学期 A70% B28%

<項目24> 「避難訓練や防災週間などの防災学習に、危機意識を持って真剣に取り組む、防災の知識を身につけることができた」

- ① 1学期 A80% B17%
- ② 2学期 A80% B17%

<項目25> 「避難訓練や防災週間などの防災学習を通して、主体的に判断し、行動できるようになるよう努力した」

- ① 1学期 A73% B24%
- ② 2学期 A78% B19%



2 課題

(1) 生徒数、保護者数の減少傾向の中で、予算的にも作業的にも負担感を感じることなく、生徒も保護者も地域の方々も共にワカメ体験学習などの復興教育に、継続して前向きに取り組んでいける体制をつくっていくことが課題である。

(2) 積み重ねてきたものを継承し継続していくとともに、生徒の実態や変容に併せて、学習内容をさらにどのような進化させていくか等が課題である。

(3) 被災地の学校であることから、防災訓練や防災週間の取り組みは、引き続き、生徒の心のサポートとセットで実施していかなければならない。個々に配慮しながらも、生徒の実態や変容に応じて、防災に向き合わせることを通して将来生きていく力を確実に身につけさせていく必要がある。

